

水稲、スイートコーン、露地ねぎ／水管理労力の節減、スマート農業、規模拡大
**ほ場の大区画化に伴い、スマート農業(自動操舵、ドローン、
 自動給水栓)の導入による省力的農業と規模拡大を実現**
 ～津谷 千代子氏(北海道上川郡東川町)～

経営体の概要

事業実施前：平成28年
 基幹作物：水稲、スイートコーン
 経営面積：30.5ha



事業実施後：令和6年
 基幹作物：水稲、スイートコーン、
 露地ねぎ
 経営面積：43.0ha

土地改良事業による生産基盤(農地、農業水利施設等)の変化

【事業実施前】

- 農地が小区画不整形で排水不良等により生産性が低く、耕作放棄地が増加するおそれ。
- ほ場が分散しており、非効率な土地利用。



排水不良な水田ほ場



【事業実施後】

- 国営大雪東川第一地区土地改良事業(平成28年～)で農地の大区画、排水改良、用水路のパイプライン化が図られ、作業効率が向上し、営農条件が大幅に改善。
- 農地の集積・集団化が図られ、農業経営の合理化と効率的な土地利用が可能。



大区画化水田ほ場

営農改善、経営転換等のポイント

①自動給水栓による水管理労力の節減

本事業を契機に自動給水栓を設置したことで、従来は各ほ場を回って作業していた入止水に係る現地操作が不要となったことで労力の大幅節減が図られた。

また、用水路のパイプライン化により用水の安定確保が図られ、入水から代かきや移植作業までの作業遅延が解消されたことで、除草剤の使用回数の削減につながっている。



自動給水栓による水管理の軽減

②スマート農業の導入による省力化

ほ場の大区画化に伴い大型機械の作業効率が向上したことに加え、自動操舵農機やドローンの導入を図ったことで、更に効率的な農作業が可能となった。

自動操舵農機では作業幅の掛け合せの減少、ドローンでは農薬の効率的な散布に威力を発揮し、作業効率の大幅な向上と省力化が図られた。



ドローンの導入による省力化

③農作業の効率化による経営規模の拡大

ほ場の大区画化により、大型機械(8条植えの直進アシスト付田植機等)の作業効率が向上し、余剰労働が生まれ経営規模の拡大につながった。事業実施前は経営面積30.5haだったが、実施後は43.0haとなっており、約1.4倍まで経営規模拡大が図られ、さらには今後は経営面積60ha規模を目指す意向がある。



直進アシスト付(8条)で田植え

事業概要

事業種：国営緊急農地再編整備事業
 関係市町：北海道上川郡東川町
 受益面積：1,335ha
 事業期間：平成28年度～令和12年度
 事業目的：区画整理
 主要工事：区画整理 1,157ha



位置図

<問い合わせ先>

北海道開発局
 農業水産部農業計画課
 計画第1係
 電話：011-709-2311
 (内線：5522)

(令和7年度調査時点)